

【連絡事項】打撃に関する判断基準と運用方針について

本大会では、選手の安全確保を最優先とし、打撃の強度判断および適用基準について以下の通り運用いたします。コーチの皆様におかれましては、内容をご確認いただき、選手への周知・ご理解をお願い申し上げます。

1. 安全面を優先した基本方針

打撃が「軽微」か「強打」かの判断は非常に難しく、現場での見極めに迷うケースが発生します。そのため本大会では、選手の安全を守る観点から「迷った場合は適用する」という安全側に倒した判断方針をとります。

2. 適用基準の明確化

判断の標準化を図るため、原則として「**明らかに頭部または顔面に衝撃が入ったか否か**」を具体的な基準として運用します。

※対象部位は「頭部＋顔面（顎・頬など）」顔面への衝撃も脳震盪のリスクがあるため、頭部打撃と同様のフローを適用

3. 客観性を担保する判定体制（複数の目による確認）

「明らかに衝撃が入ったか」の判断を1人の見解に依存させず、最低2名以上の目（複数名）で同時・総合的に確認できた場合に対象とします。

- 1～2日目の暫定運用について

1～2日目は人員に限りがあるため、試合の流れを継続して把握している「審判・MC・会場関係者等」の計6名程度を対象メンバーとします。このうち最低2名以上の確認が取れた段階で判断を下す暫定体制をとります。

4. 振り返りと改善の実施

本方針および運用体制については、初日終了後にスタッフ間で振り返りを行い、必要に応じて2日目以降の運用をより適切に改善・更新いたします。

【コーチの皆様へのお願い】

選手の安全で公正な試合環境を守るための措置となります。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

沖縄県バスケットボール協会U12部会より